

「便利屋」になっていく途上国のエンジニア  
-フィリピン人の聞き取りから-  
“Odd-Job” Engineers from Developing Countries:  
An Interview-based Survey on the Philippines

宣元錫（中央大学）, Sun Wonsuk (Chuo Univ.)

キーワード： エンジニア、海外短期就労、キャリア形成

### 1. 「頭脳流出価値論」の再考

いわゆる専門人材（highly skilled）の海外移住が送り出し国にもたらす効果については、送金のほかに教育投資の拡大、知識の移転などのプラス効果が挙げられる一方で、人材流出に伴う生産能力の減少、人的資本投資の損失などマイナス効果も指摘されている（OECD, 2008=2009:51-69）。ところが、これらの分析はマクロな視点で、また主に長期移住を想定する場合が多く、今日増加傾向にある専門人材の海外短期就労については研究が薄いのが実情である。本調査研究は海外就労を経験したフィリピン人エンジニアを対象に、海外短期就労の実態とくにエンジニアのキャリア形成に注目して聞き取り調査を行い、グローバル経済のなかで途上国エンジニアの海外就労について再考を試みるものである。

### 2. キャリア形成より給料：繰り返される海外就労

フィリピン人エンジニアの聞き取りからは以下の実情が浮き彫りになった。一つは海外就労を経験したエンジニアは短期就労（1年から2年）を繰り返していることである。エンジニアたちは大学を卒業した後に国内で数年間仕事を経験してから海外に就労する機会を得ているが、就労形態はほとんどがプロジェクト・ベースの1年ないし2年間の短期契約が多く、契約終了後は一時帰国し、数ヶ月（場合によっては数年）の空白期間を経て同様の雇用形態で海外に就労先を見つけ出国するパターンが多い。契約終了後帰国してから国内で就労する場合もあるが、再び海外に就労先を求めるケースが多かった。

二つ目に、エンジニアたちの海外就労先は業種・職種面で連続性が乏しかった。聞き取りを行ったエンジニアたちは海外の土木・建設プロジェクトやメンテナンスに従事する期間を定めた短期雇用のケースが多かったが、実際に従事した仕事は自信の専門分野に特化されるより仕事の中身をあまり選ばず就労し

ていた。また就労先において専門性を高める教育訓練を受けたり、技術や技能の幅を広げたりなどのエンジニアとしてのキャリア形成を確認することはできなかった。

三つ目に、エンジニアたちが就労先として海外を選ぶ理由は専門性より母国より高い給料である。エンジニアたちは求人のおオーダーがあれば仕事の中身より給料の高低で諾否の如何を決めていた。海外就労から得た収入は家計を支え子供の教育費に充てられ、母国で自身の専門性を活かし次の仕事につながる蓄積と投資に回るケースはほとんど観察されない。

### 3. 「便利屋」になっていく途上国のエンジニアとグローバル格差

聞き取り調査からフィリピン人エンジニアたちは「給料が安い」ことを理由に国内就労をためらい、契約ベースの短期就労を重ねるうちに海外就労を専門とする人材になっていく実態を確認することができた。雇用主であるグローバル企業はエンジニアの専門性の幅と深さを考慮したキャリア形成には関心がなく、これら海外就労予備軍からプロジェクトごとに比較的安価で容易に「ボディー・ショッピング」(Biao Xiang, 2006)を行っている。結果的にフィリピン人エンジニアたちは海外就労専門員として柔軟性の高い「便利屋」になっていったのである。

早くは韓国と台湾、最近ではインドと中国など一部の国を例に、海外に流出した専門人材が帰国して経済発展に大きく貢献している事例を、「頭脳還流 (brain circulation)」として専門人材の海外移住・就労が母国にもたらすメリットとされている。しかしこれには流出した専門人材を呼び戻し能力を発揮できる国内の基盤形成が必要になる。途上国の専門人材は、競争と自己責任を基本原理とする新自由主義が猛威をふるっているグローバル経済のなかで、キャリア形成を自己責任とされ、結果的に海外短期就労を繰り返す「便利屋」になっていくのであれば、その存在はグローバル格差の拡大につながりかねない。

#### 参考文献

- ・ Biao Xiang, 2006, *Global "Body Shopping": An Indian Labor System in the Information Technology Industry (In-Formation)*, Princeton Univ. Press.
- ・ OECD, 2008, *The global competition for talent: mobility of the highly skilled* (門田清訳, 2009 『科学技術人材の国際流動性』 明石書店)